



■被災地出張授業……2013年 10月31日

# 働くとは何か

## —働くためにはどのように学習をするのか—

講師：前原 金一 副代表幹事・専務理事

2013年10月31日、IPPO IPPO NIPPON プロジェクトによる被災地出張授業が行われた。今回は、前原金一副代表幹事・専務理事が宮城県気仙沼高等学校定時制課程を訪れ、全校生徒約40名を対象に、学ぶ力を身に付けるために大切なことについて、語った。



### 命の大切さ、尊さを知る

自ら学ぶ力を身に付けるために大切なこととお話したいと思います。

一つは命の大切さを知ることです。「生きる」ということは仏教思想では「有難し」と教えています。「有るのが難しい」とは、めったにないということで、私たちは先祖の生を受けているのだから、命の尊さに感謝して精いっぱい生きましようという意味があります。先祖を10代さかのぼると先祖の数は1,024人にもなります。私たちは先祖の思いを受け継ぐ駅伝ランナーのようなものなのです。

よく、一生懸命やっているのに成長できないという人がいますが、成長のタイミングは人それぞれです。アメリカではティーチ・フォー・アメリカという貧困層の子どもたちの教育を行う



チームができました。すると、スラム街からハーバード大学など一流の大学に進学する子どもたちが出てきました。人の遺伝子の違いは0.1%しかありません。つまり、持って生まれた才能に違いはなく、努力や考え方で変わっていくものなのです。

### 輝くために学び続ける

「一隅を照らす、これすなわち国宝なり」という伝教大師・最澄の教えがあります。自分の周りの人々や社会を一生懸命に照らすことが大切で、自分もまた多くの人に照らされているということです。照らすには自分自身が輝くこと、そのためには学び続けることです。

今、世界の半数以上の人々が食糧難で飢えています。日本は豊かです。欧米にはノブレス・オブリージュという道徳観があります。身分の高いものには、先頭に立って果たさねばならない社会的責任と義務があるというものです。日本は先頭に立って、世界の困っている人々のために働く必要があるでしょう。

日本の将来はまだ大きな可能性があります。皆さんは、日本は資源がなく、領土もないと習ったと思います。しかし、海の資源は世界第6位で、豊富な漁場があります。また、国土の70%は森林で、これも大きな可能性があります。将来、日本は資源大国になるかもしれません。

### 恩師の教えを大切に

私にはたくさんの恩師がいます。今日は二人の恩師から学んだことをお話しします。

一人は大学の恩師である隅谷三喜男先生です。卒業する時に、先生が「社会に出たら一日1時間勉強しなさい」とおっしゃいました。大学では家で5時間ほど勉強していたので不思議に思いましたが、実際に社会に出ると仕事が忙しくて、勉強する時間がとれませんでした。そこで私は毎朝、みんなより1時間早く出社して勉強するようにしました。テーマを決めて、一日1時間勉強すれば、一年たった時に大きく成長しているはず。私は、この教えを実践することで、もちろん知識の幅も広がりましたが、それよりも勉強をする習慣が身に付いたことがとても大きかったと思っています。

もう一人は新井正明さん(元住友生命保険会長)です。私が39歳で支社長になった時、「<sup>しよじんあいぜん</sup>處人藹然」という言葉を教えていただきました。人に接するときは、相手に和やかに伸び伸びと感じさせるという意味です。以来、私の座右の銘としました。

良い先生や良い先輩に出会えたら、その方たちとは一生の付き合いをするとういことです。きっと自分の人生に大きなプラスになるはず。必ず。



## 質疑応答

**Q** 気仙沼の水産業を明るくするにはどうしたらよいですか？(先生)

**A** 今の課題の一つは若い働き手がないことです。東北の漁業・農業で働いている若い人は外国人です。彼らは研修という形で日本に来て、二年ほどで帰っていきます。外国人がもっと長く働けるようにすること、日本の若い人にとっても魅力ある漁業にすることが大切です。また、今、各県がばらばらに動いている印象があります。岩手、宮城、福島などの沿岸域と一緒に考えて対策を考える必要がある

と思います。私は気仙沼の水産業や農業の将来は決して暗くはなく、明るいと思っています。こんなに漁業資源が豊富な場所はそう多くはありません。これからは、海からのタンパク質がとても重要

になります。つまり、牛や豚ではなく魚類です。今、マグロやヒラメの養殖もできるようになっています。そういった技術が進めば、もっと発展するでしょう。

**Q** 壁にぶつかったとき、どうやって乗り越えればよいですか？(生徒)

**A** 壁にぶつかることは、何歳になってもあります。しかし、後で振り返ってみると、悪戦苦闘した経験によって自分が成長していることが分かります。私が上司になったころ、どうやって部下を育てていくか悩みました。部下のできないところを指摘してもうまくいきませんでした。それ

で、部下の良いところを見つけて、そこを伸ばすようにしたら、うまくいきました。考え方を180度変えたのです。それから、恩師の話をしましたが、良き先生・良き先輩を持つことも大切です。つまり、自分だけで考えず、相談してアドバイスを求めればよいのです。そうすれば、壁を乗り越えられる確率は上がります。人は壁にぶつからないと成長できません。多くの壁にぶつかるほど、解決力や説得力が身に付くのです。

**Q** 勉強以外で、これから将来に向けてできることはありますか？(生徒)

**A** 学校の教科書で学ぶことだけが勉強ではありません。良き先生・良き先輩と色々な話をするのも勉強です。中国では優れた人は「天地自然から学ぶ」「良き先生から学ぶ」「立派な書物から学ぶ」という教えがあるそうです。一日一日、真剣に生きることも学ぶことにつながります。私は70歳ですが、まだまだ勉強して成長したいと思っています。一緒に頑張りましょう。

## 生徒の感想

●将来は作家になる夢があります。「夢を追って頑張れば必ず成功できる」という言葉が印象に残りました。命の大切さを知り、人に対しては、和やかに伸び伸び感じさせるように接していきたいと思っています。

●「世の光になろう」という言葉に感動しました。これからの社会生活をより良いものにしていきたいです。

●一番印象に残っていることは、命の奇跡についてでした。私たちが生きていることの奇跡や一人ひとりが先祖から受け継いだものが素晴らしいものだ聞いて、私が生きていることを親に感謝したいと思いました。

●素直な心で人の話を聞くことが大切だということが心に残りました。日々の積み重ねが大事なのだなと思いました。生涯ずっと勉強だということが分かったので、いろいろな人の話や本などから良いところを吸収していきたいなと思いました。

●毎日の繰り返しは難しいけれど、続けていくことが大事なのだなと思いました。今日学んだことを、これからの日々活かしていきたいです。

●「一隅を照らす」という言葉が心に残りました。自分も、もっと広く照らせるようになりたいと思いました。

●気仙沼の未来は明るい、と言われて、勇気づけられた。

●続けることが大事だと思いました。めげずに自分ができることからしていこうと思いました。挫折することもあるかと思いますが、マイペースに進んでいこうと思います。ゆっくり行くのが一番だと思うのです。

●自分のやりたいことを毎日少しずつでも続けていれば、夢はかなう。努力が大切なことが分かった。自分が生まれた確率は奇跡だということにとっても感銘を受けました。私も「一隅を照らす」人間になりたいと思いました。

●自分も多くの人に照らされていることが分かりました。これからは、今日聞いたいろいろな話を活かし、前向きに頑張っていきたいと思っています。

●自分はアルバイトをしているので、働くことの意味が分かったような気がします。

●人とのかわりかは、一生大切にすることが必要だと分かり勉強になりました。これからは、挑戦することと続けることを大切に頑張りしたいと思います。